

第2章 総合交通計画の基本的考え方

第1節 市民等のニーズ

計画の改定に当たり、公共交通に対する市民や来訪者のニーズ、課題と感じている事項を把握するため、アンケート調査を実施しました。

1.1 アンケート調査の概要

以下のアンケート調査を実施しました。

なお、アンケート調査による把握事項は、資料編（95ページ）に整理しています。

| | 市民 | 来訪者 | 特定世代 (子育て・高齢者) | 障害者 |
|----------|---|---|--|---|
| 対象 | 16歳以上の調布市内 在住者 ・対象者は無作為抽出 ・同一世帯1票を抽出 | 一都三県の在住者 ・WEBアンケートモニター ・公共交通で調布市に来訪 したことがある方 | 市の窓口及び関係施設の 利用者 ※新型コロナウイルス感染拡大 により、施設利用ができる代 替方法にて実施 | 調布市バリアフリー基本 構想策定に係る調査業務 におけるアンケート調査 結果から障害者の意見を 整理し把握 |
| 方法 | 郵送配布・郵送回収 | WEBアンケート調査 | 施設等へのアンケート調 査票の配架、回収箱設置 | 郵送配布・郵送回収 ※一部WEBアンケート・聞き取 り調査も含む |
| 回収 票数 | 1,514/3,000票 | 500票 | 322/554票 | 153/387票 |
| 時期 | 令和3年3月26日～ 4月15日 | 令和3年4月23日～ 4月26日 | 令和3年5月10日～ 6月10日 | 令和2年12月7日～ 令和3年1月8日 ※Webアンケートは 令和3年1月20日ま で実施 |

第2節 社会情勢の見通し

2.1 少子高齢化の進行

調布市の人口は、微増傾向ですが、令和12年の約24万2千人をピークに減少に転じることが予測されます。

高齢者の人口は今後も増加傾向が続く見込みで、令和35年に高齢化率が約36%になると推測され、3人に1人が高齢者となる時代が到来すると見込まれています。

このような中、持続的な発展を実現していくためには、高齢者や障害者等の自立した生活や社会経済活動への参加を積極的に支援していくことが重要です。

交通部門においては、高齢者・障害者を含め、だれもが安心して暮らすための安全で快適な移動空間の実現や、社会経済活動に参加するための交通手段の確保などに取り組むことが必要です。

また、高齢者人口の増加により私事活動が増加することから、高齢者を含む市民の価値観やニーズがより多様化していくことが予想されます。これからは、市民の様々な価値観に対応した、きめ細かな交通施策を展開していくことが重要となります。

2.2 まちづくりの動向

人口減少や高齢化、拡散した市街地が引き起こす、都市機能の低下や地域経済の衰退、インフラ補修等の対応による厳しい財政状況などの課題に対応するため、集約型の地域構造の実現に向けた取組が推進されています。この実現に向けては、立地適正化計画制度が創設され、災害ハザードエリアと立地適正化計画の連携により安全なまちづくりの推進が求められています。

また、共生社会の充実にに向けたバリアフリーの推進も重要な視点です。

公共交通については、公共交通サービスの維持・確保をめぐる環境の厳しさが増していることから、令和2年に改めて地域公共交通活性化再生法が改正され、交通事業者等の多様な関係者との連携・協働や最新技術の活用を通じた持続可能な運送サービスの提供の確保が推進されています。

2.3 環境負荷の軽減に向けた動向

調布市は様々な自然資源を有していますが、こうした環境を現在及び将来の世代が享受するとともに、必要な自然資源を維持、継承するという観点からは、地球温暖化防止をはじめとした環境問題は率先して取り組むべき課題です。

国では、令和2年12月に、「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が示されており、まちづくり・交通の分野では、車の使い方の改革や電動化、公共交通への新たな技術の導入、物流の効率化、脱炭素化・低炭素化等が示されています。

また、東京都でも、2050年にCO₂排出実質ゼロに貢献する「ゼロエミッション東京」を実現することを宣言しています。

このようななかで、環境への負荷が少なく、狭い路地も通行が可能で、高齢者の移動手段の確保や観光客の周遊に資するグリーンスローモビリティなどが「新たなモビリティ」として期待されているほか、二酸化炭素等を発生せず、自動車依存の低減により、健康増進・交通混雑の緩和等、経済的・社会的な効果があるとして、自転車による交通の役割の拡大なども検討されています。

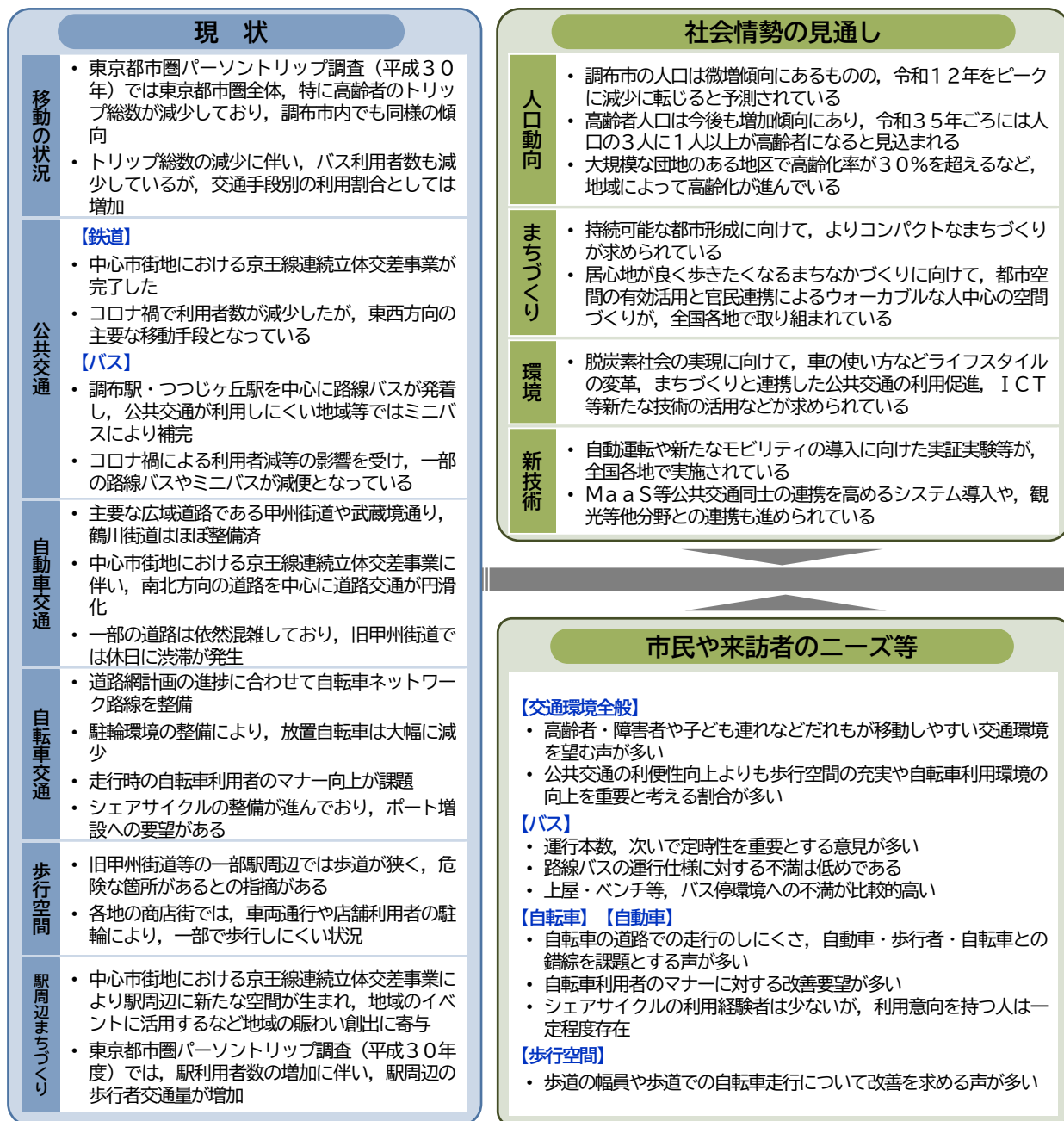
2.4 新たな技術の活用に向けた動向

前に示したような事項の解決に向けて、新たな技術の活用が注目されています。AI、IoT等の新技術や官民データ等をまちづくりに取り入れ、交通、観光、防災、健康・医療、エネルギー・環境等の複数分野にわたる「分野横断型」で最適化を図るスマートシティの検討などが進められ、サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、Society 5.0の推進なども行われています。

交通分野では、自動運転技術の活用による自動車交通の安全性向上や公共交通での運転士不足の解消や、様々な公共交通を連携し、一元のサービスとして提供するMaaSシステムの導入などが検討されています。

第3節 現状の課題の整理

これまでに示した内容を踏まえ、調布市における現在の交通に関する課題を以下のとおり整理しました。



課題

1. 利便性の高い公共交通の提供

高齢者や障害者等の外出支援、公共交通が利用しにくい地域への対応とともに、公共交通サービスの維持等に向けて公共交通の利用促進が必要

- 中心市街地における京王線連続立体交差事業の効果を生かした南北方向の連携強化
- 交通結節点における快適なバス待ち環境の充実
- 旧甲州街道等の道路混雑やバスの遅延が発生している箇所への対応
- 高齢者等の公共交通利用促進
- シェアサイクルの効果的な活用（ポートの適切な設置支援等）
- 高齢化の進行に伴う対応や移動制約者への対応

2. 交通による地球環境負荷の軽減

脱炭素社会の実現に向け、環境負荷の少ない交通体系確立に向けた環境整備や、過度に自動車に頼らなくても移動できる環境づくりが必要

- 改定地球温暖化対策実行計画に沿った取組
- 自動車利用から公共交通利用への転換促進

3. 快適な道路交通環境の実現

道路混雑の緩和や公共交通や自転車・歩行者のための安全で快適な通行空間づくりのため、効果的な道路交通施策が必要

- 調布駅周辺での旧甲州街道における休日を中心とした渋滞緩和
- 交通事故を減らすための道路の安全性向上
- ドライバーへの安全教育、マナーの向上

4. 移動環境の安全性の向上

高齢者や子育て世代等だれもが気軽に外出でき、また、調布市の魅力向上に向けて、人中心の安全・快適な都市空間づくりが重要

- 高齢者、障害者等、だれもが利用しやすい公共交通環境の提供
- 快適な歩行空間の確保
- 自転車走行環境の改善に向けた対策
- 自転車走行ルールの周知徹底、マナーの向上
- だれもが利用しやすい自転車駐車場の確保（高齢者や女性も利用しやすい、自動二輪車・原付自転車利用者の利用にも配慮等）

5. 中心市街地や拠点のにぎわい強化

調布市の活力や魅力向上に向けて、中心市街地における京王線連続立体交差事業による効果をさらに活かしながら、中心市街地や拠点のにぎわい強化に向けた取組が必要

- 中心市街地や拠点における、ウォーカブルな空間づくり
- 外出機会が減少しており移動促進による地域の活性化が必要
- 民間事業者等との共同による回遊性の向上、居心地のいい滞留空間の創出等

